

指導行政のポイント

“自分の言葉”で語ろう

菱村 幸彦

ある県の指導主事の会合で、こんな話をした。参考までに紹介する。

教育における不易と流行

世の中の流れはうつろいやすい。ついこの間まで、世間の批判はもっぱら詰め込み教育に向けられていた。こんなに指導内容が多くてどうするのか。こんなに盛りだくさんの教科書をどうやって教えるのか。いま子どもたちは知識の詰め込みに息も絶え絶えだ、と言わんばかりの評論が行われていた。

ところが、このごろはまったく正反対の意見がマスコミをにぎわしている。ゆとり教育ということで、文部科学省は教える内容を大幅に削減した。こんなに教育内容を薄くしたら、子どもたちの学力低下は必至ではないか。こんなに薄っぺらな教科書でどうやって教えるのか、と非難ごうごうである。

よく、教育における不易と流行ということが言われる。臨時教育審議会答申がこの言葉を用いてから、教育界ではやるようになった。芭蕉は、不易と流行について「その本一つなり」(赤双紙)というが、教育界では、とかく不易より流行のほうがもてはやされるようだ。詰め込み教育批判もゆとり教育非難も、結局は、その時々「流行」ではないか。

大切なのは不易である。学校教育における不易とは、一つは、子どもに学力を身につけさせること、もう一つは、子どもをよき人間に育てることの二つだと、私は信じている。この二つのことをしっかり実践するのが、学校の役割である。

で、この場合、学力とは何か、それを身につけさせるにはどうしたらよいか、よき人間とは何か、それを育成するにはどうしたらよいか、などについて学校に適切なアドバイスするのが、指導主事の役

割ということになる。

指導主事はその役割を果たすために必要なのは、指導主事としての専門性の広さと深さである。指導主事の専門性には、学問的な知識が欠かせない。それは、単なる書物上の知識であってはならぬ。体験に裏打ちされた実践的な学識でなければならない。

トレンドイな言葉ほど空疎に

それともう一つ、これは自戒の気持ちを込めて言うのだが、指導主事が指導をするときは、自分の信念を自分の言葉で語ることが大切だと思う。トレンドイな言葉をいくら器用に操っても、教師の心を打つことはできないだろう。

私は、ここ数年、岐阜県教育史の編纂の仕事を手伝っている。それは全30巻という大事業である。戦後の教育実践の記録を読んでいて感ずるのは、研究発表会などで講師がその時々「流行」のキーワードを使って語った記録は、時が経つと空疎に響くが、トレンドイな言葉など用いないで、自分の信念を自分の言葉で率直に語った記録は、今も読む者の心を打つという事実である。

指導主事は、流行のキーワードに惑わされず、自分の知識と経験に基づく教育的信念を自分の言葉で率直に語ってほしいと思う。これは、学校の校長にも言えることだろう。

(ひしむら・ゆきひこ = 国立教育政策研究所名誉所員)

“危機管理”研修テキスト三部作 好評発売中

『求められる危機管理能力』大石勝男編・2310円

『学校の危機管理マニュアル』菱村幸彦編・2310円

『危機管理の法律常識』菱村幸彦編・2310円

本紙はホームページでも閲覧できます

7月の新刊案内 大好評発売中！ 今国会成立の教育改革法案の理解にも最適。 教育開発研究所刊
管理職選考で出題頻度の高いキーワードを最新の改正法令、改革答申をもとにわかりやすく解説！〔菱村幸彦編〕

よくわかる最新管理職選考教育法規キーワード

A5・220頁・定価2,310円

研修誌・図書の直接注文、研修会のお申し込みは、無料FAX 0120-462-488をご利用ください(24時間受付・即日発送)